

II 国語

正答表並びに採点基準

(平成二十七年度)

問一

(ウ)	(イ)	(ア)	
2	3	1	
円	民	3	1
熟	衆	2	1
築	製	4	2
(く)	造	2	4
		2	2

ちんしや たくはい  
こご(える) ぞうてい

問二

(カ)	(ア)
3	1
3	1
2	4
1	2
1	4

問三

(キ)		
が	以	自
う	上	分
I	に	ら
華	が	し
や	ん	い
か	ば	こ
さ	っ	と
II	て	を
サ	、	し
イ	、	て
ズ	。	、
	いま	ま
	ま	ま
	で	と
	ま	ち
40	ま	ま
	で	で

問四

(ア)	(オ)	(エ)	(ア)
工	2	I	4
4	4	や	
1	4	か	
2	3	さ	
3		II	
		サ	
		イ	
		ズ	

(エ)は両方できて正解。

(キ)は正答例。

30

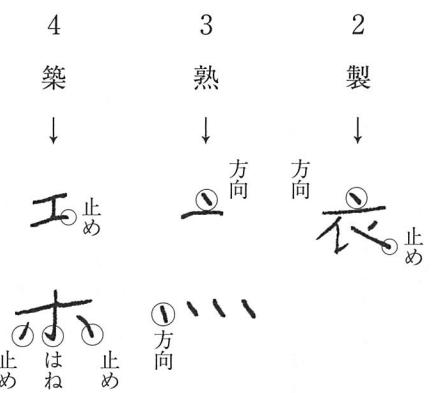
四	三	二	一	問	計
各4点 計20点	(ア)2点、(エ)6点、他は各4点 計24点	(キ)6点、他は各4点 計30点	各2点 計26点	配点	100点

## 採点上の注意

### 問一 (イ)について

- ① 字体については、平成二十二年十一月三十日内閣告示第二号「常用漢字表」による」と。あとに、それに基づく許容例を示す。  
『常用漢字表』は、以下の文化庁ホームページからダウンロードできる。  
<http://www.bunka.go.jp>

### 〈許容例〉



- ② 疑問点は複数の採点者によつて判断し、校内で統一する」と。

### 【抜き出し問題について】

- ① 完全正答とし、内容についての中間点を設けないと。誤字・脱字についても減点対象とはせず、誤答とする。  
② 疑問点は複数の採点者によつて判断し、校内で統一する」と。

### 【記述問題について】

- ① 正答例以外の文であつても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば正答とする。  
② 内容については、中間点を設けない。  
③ 誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）があつた場合は、その数にかかわらず一点減点とする。誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。  
④ 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者によつて判断し、校内で統一すること。  
⑤ 疑問点は複数の採点者によつて判断し、校内で統一する」と。

### 問二 (キ)について

- ① 中間点は、誤字・脱字（句読点に係る誤りを含む）があつた場合と表現に問題があつた場合の減点以外は設けない。したがつて、中間点は四点または二点となる。  
② 内容については、次の二点に触れている」と。  
「今まで以上にがんばる」と。  
「今までどちらがう自分（千鶴）になる」と。

### 〈正答例〉

自分らしい」とをして、今まで以上にそれをがんばり、今までと違った千鶴になること。